

地域の子どもたちの健やかな成長を願って

けんもり 特別支援教育だより

岡山県健康の森学園
支援学校
編集：教育支援係

第3号

平成29年8月28日

「生活する力を育てる」 ～寄宿舎の取組～

けんもりの寄宿舎では、小学部1年生から高等部3年生までの児童生徒が生活しています。様々な年齢の子どもたちが同じ場所で生活を共にしているため、年下の舎生にとって年上の舎生はよきモデルとなり、年上の舎生は年下の舎生に関わり、お互いに交流が行われています。

豊かな自然、静かな環境の中、舎生たちが落ち着いて生活できるように、寄宿舎と学校・家庭が、しっかりと連携しながら、支援・指導を行っています。

「自立」する力を育てる

○日常生活の取組

挨拶、歯磨き、入浴、衣類の選び方、洗濯物の干し方やたたみ方などの生活に必要な活動について、寄宿舎が共通理解のために作成して配付している冊子『日常生活の共通理解』を基にして、小学部・中学部・高等部と寄宿舎が連携して一貫した支援を行っています。



○自立生活活動の取組

起床から就寝まで、生活の内容や時間を自分で考え、自分で実行する体験をします。グループホームや施設などでの生活をイメージした生活体験ができます。



「余暇」を楽しむ

○余暇活動の充実

集団生活の中で自分に合った時間の過ごし方ができるように支援しています。

○ユアタイム

寄宿舎指導員を中心に、様々な先生が様々なジャンルで、自分の得意なことを寄宿舎の子どもたちに紹介してともに楽しむ企画です。ジャグリング、手芸、ニュースポーツ、バスケットボールやテニスなど、盛りだくさんの計画が進行中です。



○ノーゲームデー

「電子ゲームをしない日」を設け、ツイスターや将棋などアナログなゲームやスポーツを楽しんでいます。



○寄宿舎行事

寄宿舎フェスタをはじめ、毎月行事があります。舎生が実行委員になり、企画運営から評価反省まで行います。

水曜日運営

毎週水曜日、児童生徒は13時15分に下校します。下校後の時間を有意義に過ごすために余暇活動や生活指導、各棟での活動などを行っています。

おやつ



毎週水曜日には、おやつを食べます。この日は自分でおやつをコーディネートしました。

おしまい会



学期の終わりに『おしまい会』で振り返りをします。(3学期は送る会)

スポーツ大会



学期に1回4チームに分かれスポーツ大会を行います。

季節の行事



七夕、節分など季節を感じる行事も行います。

スポーツテスト



希望者はスポーツテストに取り組み、自分の体力を測ります。

生活指導



歯磨き、衣服の選び方・たたみ方など生活に役立つ指導を行います。

野外活動



天気のよい日は、おやつを持ってピクニックをします。

安全指導



寄宿舎では年4回火災や地震を想定した避難訓練を行っています。

中学部校内実習の取組

1 はじめに

中学部では平成27年度より、特別支援学校中学部段階の校内実習において県内でも珍しい企業からの委託作業を行っています。その取組について紹介します。

2 委託作業に決まるまで

以前の校内実習は、学年別に、通常の作業学習で行っている作業種（屋外作業）を全日日程に編成して実施していました。これに対して、企業と連携した委託作業は、①新しい作業で生徒が興味をもちやすい、②定型反復の作業が十分に設定できる、③天候に左右されない、④依頼主や作業後の商品の流通が明確である、⑤学部全員で同一の作業種に取り組むため生徒の実態や課題を共有しやすい、⑥本物の商品を扱う機会を提供することができる（本物に触れることで得られる働くことへの意識の変化）など、期待できる要素が多数考えられました。

実施前の学部研修や、実際の商品が届いて実物を目にしたときには、「中学部の段階で、取り組むのは無理ではないか」という否定的な意見もありました。しかし、企業の担当者の方に来ていただき、説明を聞いたり、毎日放課後に研修を重ねたりする中で、徐々に職員の中に、委託作業という新たな取組に向けて、前向きに頑張ろうとする雰囲気が高まりました。このようにして、初めての委託作業に取り組むに至りました。そして、実習のキーワードとして、「魅力」「やりがい」「達成感」の3つを設定しました。

そして、「生徒につけたい力」として次のことを取り上げ、職員間で共通理解を図りました。

- ①やるべき仕事に分かり、最後まで続けること（魅力）
- ②仕事にやりがいを感じ、集中して力を発揮すること（やりがい）
- ③個々が分担した仕事を総合することで目標が達成され（達成感）、それによって「他の人の役に立つ」ということが意識できるようにすること（やりがい）

3 実習における職員の役割・準備・計画

① 職務分析

本校高等部の校内実習をベースに日程を作成しました。後期実習は2週間ということをお勧めし、1日あたりの作業時間を3時間45分に設定しました。1回の作業時間は75分間とし、午前2回、午後1回設定しました。

② 工程分析

作業種の概要を基に予想される工程をできるだけ細分化し、生徒一人一人に応じた作業内容を整えました。

③ 環境設定

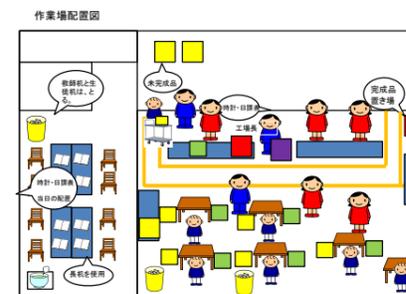
企業担当者との打合せに基づき、安全な商品管理のための生産ラインの設定、商品の搬入・搬出のための通路の確保、作業台の高さや向き、ワークシステム等、個々の生徒の実態を踏まえた環境整備等を整えました。

9:00	出社・朝礼・日誌
9:15	作業
10:30	休けい
10:45	作業
12:00	食事
13:15 (1:15)	作業
14:30 (2:30)	片付け・準備
14:50	更衣
15:00	日誌
15:10	終礼・退社

また、作業エリアと休憩エリアを完全に分離し、休憩エリアは、朝礼・終礼、作業日誌の記入を行う場所としました。

④ 支援の工夫

支援の観点を明確にし、生徒の様子を見ながら適宜改善を繰り返して、より生徒に合ったものに更新していきました。



動機付けとして、事前学習では、企業の方のメッセージ

ビデオを流し、「社長さんも期待してくれているから頑張ろう」と意欲を高めました。また、委託作業製品の搬入時は、全ての箱を体育館のステージに並べました。「こんなにあるのか」という声が聞かれる一方で、「本気で頑張ろう」という声も聞かれました。さらに作業工程を分業したり、作業自体を教員と一緒にいたりすることで一体感のある現場になり、長期間の実習をチームとして完遂することができました。

4 取組を通して

生徒が、「魅力」「やりがい」「達成感」を得る校内実習を目指して取り組んだ結果、職員全員が、個々の役割・場の設定・支援員の工夫・生徒の動線等、様々な観点から授業を見直すことができました。このことで、生徒が自信をもち、自ら作業場所へ移動したり商品を取りに行ったりするなど主体的な姿が多く見られるようになりました。また、職員が「達成感」ということを常に頭に置き、生徒の指導に当たりました。そのことが言葉掛けや支援に対する考え方に反映され、生徒の意欲の向上にもつながったと思われます。

通常の作業学習や日常生活においても「どんな支援があればできるようになるか」という視点で生徒の発言や行動を捉えて支援を模索する場面が増えました。洗濯当番や掃除当番、給食当番などで分かりやすく仕事内容などを提示することにより、生徒ができることが飛躍的に増えたり、できるためのスキルを習得していることが明らかになったりしました。そして、それらの活動を繰り返し行うことで、生徒が自信を深め、自分の仕事として誇りをもって行う様子も見られるようになりました。



5 まとめ

このようなことを踏まえ、今年度の校内実習も企業からの委託作業としました。2・3年生は前年度の経験を生かし、商品は変わりましたが、主体的に作業に取り組むことができました。上級生の姿を手本として、1年生も同じような態度で作業に取り組むなど、よい流れができています。

生徒が変わるためには、教員が変わらなければいけないことが重要であることを忘れずに今後も指導・支援していきたいと考えています。